

## よく使うコマンド (シェルの使い方の補足を兼ねて)

121

## echo コマンド

- ・ 引数をそのまま標準出力に書き出す
- ・ `-n` オプション  
最後の改行を省略する
- ・ シェルに解釈してほしくない記号は単一引用符' や二重引用符"で囲む

122

## クォーティングについて

- 単一引用符(')と二重引用符(")の使い分けは結構複雑なので、基本的にはより強力な'を使えばいいだろう  
(例) `echo "$PATH"` と `echo '$PATH'` では結果が違う  
⇒ ~ や \$変数が含まれている場合は二重引用符を使う

123

## クォーティングについて(続き)

- 単一引用符を引用符記号として使いたいときは工夫が必要  
(例)  
Tom's pen をechoコマンドで出力する場合、  
`echo Tom¥'s pen` (¥はバックスラッシュ) とするか  
`echo 'Tom'¥'s pen'` とする

124

## バックスラッシュエスケープ

- 前スライドのように、' や \* といった記号をシェルにそのまま伝えるには、その記号の前にバックスラッシュをつけてもよい  
(問題) `echo 2 * 3 > 5 is OK` の出力を `2 * 3 > 5 is OK` とするにはどうしたらよいか
- バックスラッシュをバックスラッシュとして使いたいときは、`¥¥` (バックスラッシュ バックスラッシュ) とする

125

## コマンドラインの継続

- コマンドラインが2行以上にわたるときは  
`echo 2 ¥* 3 ¥> 5 and ¥`  
`12 ¥> 2`  
のように行末にバックスラッシュをつける
- このとき、2行目以降のプロンプトは `>` になる  
(シェル変数 `PS2` がこのプロンプトを規定している)

126

## コントロールキー (C-)

- 主なUNIXでサポートされている割り当て
  - C-c (intr) 現在のコマンドを中止する
  - C-d (eof) 入力を終了する
  - C-¥ (quit) C-cが効かない場合に中止する
  - C-m リターンキーと同じ
  - C-s (stop) 画面への出力を停止する
  - C-q 画面への出力を再開する
  - C-u (kill) コマンドライン全体を削除する
  - C-z (susp) 現在のコマンドを一時停止する
  - DEL or C-? or C-h 最後の文字を削除する

127

## diff コマンド

- 2つのファイルの差分を求めるコマンド  
(行毎に調べる)
  - 例 diff file1 file2
  - 同じなら出力なしでプロンプトが返ってくるだけ

[練習]

128

## headコマンドとtailコマンド

- ファイルの最初の部分を見るのがheadコマンド（デフォルトは最初の10行）  
例 `head -5 filename`（最初の5行を見る）
- ファイルの末尾部分を見るのがtailコマンド（デフォルトは最後の10行）

129

## ファイルの圧縮

- ファイルを圧縮するには `gzip` コマンドを使う  
例 `gzip filename`  
圧縮されたファイルは名前が変わり、`.gz` という拡張子がつく
- 圧縮されたファイルを戻すには `gunzip` コマンドを使う  
例 `gunzip filename.gz`
- 圧縮されたファイルを戻さずに中身を見る  
`zcat filename.gz | more`

130

## 圧縮フォーマットの種類

圧縮形式の名称	圧縮コマンド	解凍コマンド	圧縮ファイルの拡張子
gzip (GNU zip)	gzip	gunzip gzip -d	.gz
bzip2	bzip2	gzip -d	.bz2
LHA	lha -a	lha -x	.lzh
UNIX Compress	compress	uncompress	.Z
RAR			.rar
CAB			.cab
Stuffit			.sit
7-Zip			.7z

131

## file コマンド

- ファイルのデータフォーマットを推定する  
例 file filename  
→ ASCII ファイル、DVIファイル、  
PostScriptファイル、PDFファイル、データ  
ファイルといった推定をする

132

## tar ( gtar ) コマンド

- `tar cvf text.tar *.txt`  
としてtxtの拡張子を持つ(複数)ファイルを  
`text.tar`というファイルにまとめる。(圧縮と違って、  
元のファイルはそのまま残る)
- `tar cf dump.tar .`  
とすると現ディレクトリ以下のすべてのファイルを  
`dump.tar`というファイルにまとめる。( `tar czf`  
`dump.tar.gz .` とすると同時に圧縮する )

133

- `tar tf text.tar`  
としてtarファイルの構成要素を見る。  
( 圧縮されたtarファイルでは  
`tar tvzf text.tar.gz` )
- `tar xf text.tar`  
としてtarファイルから個々のファイルを取り  
出す

134

## 日本語字種の変換

- EUCコードへ  
nkf -e ファイル名1 > ファイル名2
- JISコードへ  
nkf -j ファイル名1 > ファイル名2
- S-JISコードへ  
nkf -s ファイル名1 > ファイル名2
- UTF8コードへ  
nkf -w ファイル名1 > ファイル名2

135

## sort コマンド

- 行単位で並べ替えをして、標準出力に出力するフィルタ
- 主なオプション
  - n 数値として比較
  - r 逆順で並べ替え
  - f 大文字と小文字を区別しない
  - k *i* *i*番目のフィールド以降を比較(1オリジン)
- (例題) ls -l の出力をファイルの大きさの順に並べ替える

136



## a2ps コマンド

- 日本語ファイルをPostScriptフォーマットに変換するときに使うフィルタ
- プリンタ使用時に  
a2ps filename | lpr  
のように使う（さまざまなオプションがある）

137

## who コマンドなど

- who・・・誰がそのマシンにログインしているかを調べるときに使う
- whoami・・・現在のアカウント名を表示する

138

## which コマンド

- ・ which コマンド名 のように使うと、そのコマンド名で実際にはどういうコマンドが実行されるかを表示してくれる(そのコマンドの絶対パスやどういうコマンドにaliasされているかなど)
- ・ bashでは type という同様のことをしてくれるコマンドがある

139

## find コマンド

- ・ ファイルを検索するコマンド  
例 `find . -name '*.txt' -print`

140